

こんにちは

会社訪問記

リサイクル新時代を進取、
美しい環境を未来へ伝えたい。

株式会社 マルカン

(名古屋市東区)

名古屋市東区で収集運搬と中間処理を行っている株式会社マルカンにおじゃまし、加藤社長と石川営業部長のお二方にお話を伺いました。

— 瀬戸市にリサイクルセンターがあるようですが、どんな施設を保有されていますか。

加藤社長(以下加藤に略)『破碎、選別、焼却の各施設があります。近いうちに隣接地に可燃物・不燃物の分別するストックヤードを設置する構想があります。』

— このリサイクルセンターで一番多く取扱っている品目は何ですか。

加藤『当社では単一品目というよりも、混合廃材が一番多く、全体の70~80%程度あります。』

石川営業部長(以下石川に略)『当社の場合、建設現場から排出される建設副産物をかなりの量処理させていただいており、多くが混合廃材となって出てきます。これらを可能な限りリサイクルかつ減量化を行うため、このリサイクルセンターを設置したわけです。』

— 現在、リサイクルにおいて貴社独自で取り組んでいることはありますか。

石川『“4-4-2 作戦”と当社で名付けているシステムがあります。搬入量の内、40%を分別しリサイクルに還元、さらに40%を破碎、選別、焼却などの中間処理で減量化、残り20%を適正に埋立てるようシステム化し、リサイクルと適正処理に努めています。現在、ナゴヤドームの建設工事現場において、リサイクルステーションを設置し処理処分を行う新しい試みを行っています。』

— その試みを、詳しく話していただけませんか。
石川『まず、廃棄物となる物を現場に持ち込まない。



社内

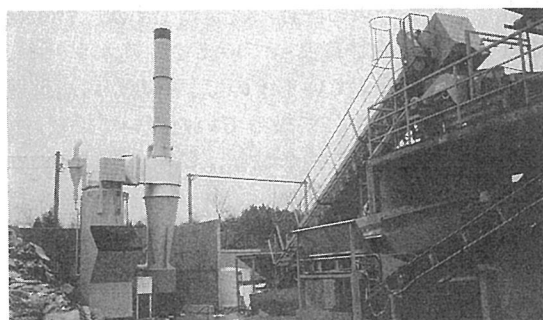
現場の各業者の方々に持込検討依頼書を作成していただき、搬入時に余分な物が入らない体制をつくります。そして、現場から廃棄物を持ち出さない。焼却炉や破碎機を導入し、リサイクルや減量化を図るわけです。発生量100%に対し、リサイクルの量を含めて80%が減量化でき、残りの20%を適正処理するだけで足りる。いまゼネコンさんの間で注目させていただいており、いろいろ引き合いが来ています。』

— 最後に将来的な事業展望としてどのようなプランを持っていますか。

加藤『工場の生産設備のような屋内設備の中間処理施設をつくりたいですね。これならば騒音や粉塵対策も解決できます。完全にシステムチックになれば能率も上がりますし、リサイクル率も向上するでしょう。地域住民の方々のご理解も得やすいと思います。また、施設とは別に、今後は処理業者同士がチームをつくり、お互いに提携をし合って事業を推進していく方向が一番よいと思います。既にこの方向で当社は進んでいます。』



加藤社長



社名/株式会社マルカン 所在地/名古屋市東区東片端町49番地
代表者/加藤悦久 創業/昭和53年 従業員/75名 TEL/052(931)9375
事業所/本社、5営業所、瀬戸リサイクルセンター
営業種別/収集運搬、中間処理(破碎、選別、焼却)
取扱品目/燃え殻、汚泥、廃プラスチック類、紙くず、木くず、金属くず、ガラスくず及び陶磁器くず、建設廃材